

2015年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便利が見られます



教室だより 1月号

「約束」を裏命令にしないために

新しい年を迎え、今年1年の目標を立てたり、お子さまと何かの約束をされたりしたご家庭もあるかと思います。わが子が「約束を守れる子」になるような親の働きかけについて考えてみませんか。

例えば、ピアノの練習を約束の時間にやらない子どもがいたとします。

お母さんは、「3時になったらやるって約束したでしょ。自分で習いたいって言ったんでしょ。やらないなら、もうやめたら?」と叱りました。でも、この約束、子どもが納得した上での約束だったのでしょうか。

「そんな約束はイヤ」という子どもの言い分を認めない約束ならば、それは約束ではなく命令です。

「レッスンの前に練習したほうがいいと思うよ。何時からする?」「わかった、3時になったらするよ」というように双方が納得した上で、話しを進めて決めるのが本当の約束ではないでしょうか。

そして、本当はお母さんがレッスンを続けさせたいと思っているなら、練習をしなればレッスンをやめるという約束はしないほうがいいですね。約束は双方が守らなければならないのですから。

また、約束が守られなかったときでも、「約束したでしょ。どうして守れないの」と言うより、「もう3時になるよ。練習始められるかな」と促してみてください。

気づいていないのかな、というニュアンスで、気づかせてあげるというふうにすれば、子どもはふくれっ面をせずに約束を守ってくれるのではないのでしょうか。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“自信と余裕を生むための能力育成”

もともと、子ども一人ひとりの能力には違いがありますから、同じ年齢の子どもだからという理由だけで、同一の学習をさせることが不自然なのです。一人ひとりの現在の学力に合ったところから始めて、確実に学力を高めていく…、本当に子どものことを考えれば、こうならざるを得ません。学年別の画一的な教育では、学力の低い子はいきませんし、学力の高い子は足踏みさせられることになってしまいます。

それに対して、個人別・能力別の学習を推し進めながら「子ども一人ひとりの可能性を最大限に伸ばしていく」のが公文式教育の理念です。その理念にそった公文式は、学力をつけ、ひいては入試などにも最も効果の高い学習方法ですが、なおかつテストや入試だけを目標としているわけではなく、一人ひとりの子どもたち自らが、自らの課題を解決しながら、自信と余裕を持って進んでいける能力育成の役割を果たしているのです。

2015年 1月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
				1 元日	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

本市場教室日□

横割教室日△

今月のことわざ

臨機応変

その場、そのときの状況に応じて、適切なやり方をすること。

「ピクニックにいったとき、急に雨がふったけれども、臨機応変に対応した。」

「救急車をすぐによぶという、臨機応変な処置のおかげで、たいへんなけがにならずにすんだ。」

くもん出版刊「四字熟語カード」より

*ゆき子の一言コラム

「先輩からのアドバイス」～大学入試に本当に必要な力～

ある卒業生と話をしていた時のことです。難関大学にみごと合格した彼に、入試の体験談を聞いたところ「公文式だけで大学入試は大丈夫です」ときっぱりと答えてくれました。うれしい反面、正直「本当かな？」と思いました。公文式教材で学べる内容には限りがあるからです。しかし、彼の話聞くうちにその理由がよくわかりました。

「確かに公文式の教材だけで大学入試に必要なすべての知識を得ることはできません。予備校などでは実に豊富な情報や方法を教えてくれます。しかし、それは与えられたものであって、自分にとって本当に必要なものかはわかりません。むしろ不要なものもあります。それよりも大事なことは、きちんと自分で学習計画を立て、それを検証・修正する能力、今の自分に何が必要かを考え、その情報を得ていく姿勢、そして未知の問題に取り組んで学ぶ力が必要です。そのときに公文式で培った自学自習の姿勢と学力が何よりも役に立ちました」というのです。

確かにたくさんの知識や高度な学力が大学入試には求められます。しかし、本当に大切なことは安易に知識や解答を与えることよりも、「その知識や解答を自分で得ていく方法」と「自分から課題に立ち向かっていく学習姿勢」を身につけさせてあげることなのだとわかりました。高度な学力はその結果として、確実に身につけていくのです。これは大学受験のみならず、社会に出てからも同じことがいえるはずです。公文式を学習していくことの意味・意義を、また生徒から教えてもらえたと実感しました。

公文生が中学高校で強い訳

算数・数学

公文式では、中学・高校での数学を楽に解きこなす為に、小学校段階での四則計算を重視しています。＋×÷の基本をしっかりとおさえ、分数の力を高めた上で、中学以降高校の数学へとつなげます。高校教材まで一直線に作られたプログラム教材だからこそ、どの子も算数・数学が好き得意になるのです。

英語

身近な単語から次第に英語の読み書きの力を高める公文式英語。基本文法をしっかりと学習し、リスニング機器（イー・ペンシル）使ってネイティブ、スピーカーの発音もたっぷり吸収。楽しい英会話文から始まり長文読解までしっかりしたプログラム、中学で学ぶ英語の準備にも最適です。

国語

公文式国語は、文章を正確に理解する力を育てます。一人一人の力に合わせて、語彙力、文章を読み取る力を高め、確実な読解力を養成します。長い文章を読んでも、楽にその内容を要約できる力を養います。だから、中学・高校で強いのです。当然でしょうね！

保護者の皆様 冬休みの宿題は基本的に5日分お渡しする予定です。 年末年始のあわただしい中での学習習慣はくずれやすくなります。宿題のやり残しは、お子さまの学習意欲の減退につながります。冬休みの学習を、ご家庭でお子さまと話し合ってくださいようお願いいたします。宿題の増減についてご希望がございましたら、最終学習日（本市場教室25日・横割教室24日）までにお申し出ください。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。1月分の会費引き落としは12月29日（月）です。よろしくお願いいたします。（注）休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。最近教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないと言われました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。